



曹洞宗新潟県第四宗務所 布教師会会報

発行者 呉 定明

編集所 新潟市秋葉区新町2-5-51 観音寺内

題字 法聲 (ほうせい) 渡邊宣昭師

「」挨拶



第四宗務所布教師会会長  
正壽寺 呉 定明

教授戒文の十重禁戒について

道元禪師は、自我意識を放棄する只管打坐を強調された、教授戒文の不殺生戒とは、「私たちの使命は、仏祖の慧命(えいみょう)を嗣統(しぞく)する事」つまり、仏の本質を失わないように戒を保つ事である。殺生をしないではなく、全ての存在に平等に命を認める事が「不殺生」であり、「仏の慧命を統ぐ」ことは、「佛性保任」する事である。

不偷盜戒とは、みずから盗み、人をして盗ませてはならない、道元禪師は「盗まない」事は、三毒煩惱の束縛から離れた悟りの境地、解脱を意味する事である。

不淫欲戒とは、貪らない。戒の根本である自己満足の追求を止めた(不貪)である。好みに暴走せず、浄不浄に執着しない事である。

不妄語戒とは、うそをつかない。自我意識が無い事、全て真実を表現しており、全てをそのまま頂戴する事である。

不酤酒戒とは、酒に酔うかの如く、自己陶醉せず、謙虚に正師以外の言葉信じない。人を酔わせない事。また酔わないとは解脱であり、佛性保任である。

不説過戒とは、人の過ちを責め立てない。相手の言動を肯定的に捉えるようにする。全ての物は絶対平等であつて、全て差別する事なく、まさに自他不二である。

不自賛毀他戒とは、自慢や他人の批判を慎む。相手の言動を肯定的に捉えるようにする。皆、仏であるから、自他共に尊いという事を実践する。

不慳法財戒とは、人に何かを与える事を惜しまない。みんなが喜ぶ言葉や行いをお互いにやり取りする。布施波羅蜜を行す。

不瞋恚戒とは、怒りの感情を露わにして、周囲に不快感を与えない。笑顔と穏やかな言葉を心がけていく。慈悲心・孝順心を行す。

不謗三宝戒とは、三宝を謗らずに、敬つて帰依していく。仏の姿を修行する事である。

「」あいさつ



第四宗務所所長  
観音寺 阿部 正機

第四宗務所布教師会会員諸師のお陰を持ちまして、令和六年四月一日より登山禪師七〇〇回大遠忌記念としての、第四宗務所テレホン(WEB)法話「和尚さんの言の葉」が始まりました。「かつて誰かの法話が私を温め励ましてくれたように、テレホン法話が誰かの心にそっと触れ温めることが出来たらいいな」をコンセプトに、法話者と講師と宗務所が三位一体となり、法話を作り、法話を声に出し、法話を聞く作業を丁寧(ていねい)に紡ぎ、現在順調にテレホンとWEBを通して法話を発信し、また一定のアクセサをいただき、法話者への応援ともなっております。管内宗侶皆さまにはこれからも積極的に関わっていただき、管内宗侶皆で育ち、息の長い継続事業となることを切に願っております。

先日ある禅僧の書かれた本を求め、その本の内容もさることながら、監修として本への感想を書かれた著者の法友の方の文章に釘付けにされました。

「禅僧にありがちな難解さなどなく、仏教知識を振りかざす感じもありません。社会や身近なところから題材をとり、具体的にありながら、過度に笑いや流行に走らず丁寧(ていねい)に言葉が紡がれております。その言葉に触れるだけで心が落ちていくようです。そして分かりやすく落ち着くだけでなく、語る言葉の一つ一つが深く考えさせられる内容です。特に平和とは何かに関して、答えを出していたくのではなく、そばに寄り添って考えさせていたくするような気持ちになりました。答えを出してしまわず、安心して深く考えていただけるよう導いていただく進行。これこそ人々を安寧に導く本物の宗教者としての生き方と覚悟から紡がれる珠玉の言葉なのだと思承(おぼしめ)しました。」

まさに著者「法話」に対する最高の称賛をされている事もあることから、「法話はこうあるべき」という布教師に示唆を与えてくれる内容であり、さらには秀逸な言葉で紡がれている表現力に感銘を受けました。

一つの出会いや物事に対して、どれだけの感情を抱き、どこまで深く考えることが出来るのか。その積み重ねが心と言葉と行為の豊かき、法話の旨味に繋がります。延いては自身の布教教化への一助となっていくことを学ばせていただきました。

結びに、第四宗務所布教師会では、管内宗侶である多くの皆さまの入会を希望しております。ともに布教の研鑽と交流を深めるため、いま、ここから自らの布教の扉を開き、自分の歩幅で布教の歩みを進めてまいります。入会をお待ちしています。

## 第四宗務所布教師会春季研修会



講師 渡邊 宣昭 師

田上 東龍寺住職  
特派 布教師  
令和三年度布教師養成所主任講師

## 演題 『通夜のおつとめで、心掛けている』

私自身、通夜、葬儀、法事で心掛けていることは遺族の心に寄り添う事を大前提にして、亡き人を仏として高めていくこと、亡き人の教えや願いを受け止め、亡き人を心の支えとして共に仏道を歩んでいけるように実践しています。

法話は作る物ではなく、その都度亡き人の生前の姿を思い浮かべ生み出すものであり、同じ法話にはなりません。遺族に「仏心 菩提心」を持っていただけように話します。特に仏法に馴染みのない若い人たちへはお経の素晴らしさを解っていただけるよう心掛けて話します。具体的な実践行へ導いていく事で、決して仏様のご利益など求めるのではなく、私たちが亡き人へ勤めていく事を大切にしてもらうよう話していきます。

実際に行っていることは、お亡くなりになり枕経に伺った時に故人の人となりを感じ取ることが大事です。よく聞き取りお通夜までに戒名と法話を作成します。私の場合はお通夜で授戒をいたしますので、お通夜の時に戒名の説明と個人との繋がりのお話をします。なぜ故人にこの戒名をお付けしたのか、中に故人の生き方が入り、仏法に照らされた生き方に結び付けられているか、私自身と個人との思い出・体験談を法に照らして話をします。

お通夜では授戒の後に仏の徳を褒め讃えるために歎仏をいたします。故人を思い五体投地のお拝をし、お参りの方にも一緒に「南無三世諸仏」をお唱え頂き、合掌礼拝を促します。礼仏すると仏さまと自分が近づき一体となり、終わってからの話につながります。礼仏は『正法眼蔵 行持』の巻で「仏に著きて求めず、法に著きて求めず、僧に著きて求めず、常に礼仏することは是の事の如し」とあり、礼拝というのは自分も相手もなく一体なのだ、という意味になります。お参りの方にも一緒にに行じることにより、故人との関係が深まっていくと思えます。

おつとめの後には血脈の説明をします。永平寺七十九世福山禅師も授戒会の際にお話しされていましたが、私の場合はお釈迦様から数えて八十九番目の弟子になるので、故人は九十代目の弟子になることを説明いたします。「血脈でお釈迦様から赤い線で繋がれていてお釈迦様のところに還っています。紙の上ですが赤い線が持ち上げられるとしたら数珠のように九十一人の方が教えの輪で繋がっています、上下もなければ左右もない。お釈迦様と一つになった証がこの血脈です。」と説明いたします。

また、南無三世諸仏の説明でよく使う短歌があります。「右ほとけ 左は我と合わす手の 中ぞゆかしき南無の一声」左手に自分の心、右手に仏様の心あるいは亡き人やご先祖様を表し、左右のぬくもりを一つにしてお唱えをしていることを添えて話しています。強調したいところは「亡き人を生きている人の導き手として受け止めてもらいたい。亡き人の生き方を自分の導き手と捉えてもらいたい、悪い所は反面教師と考えてもらいたい」。武者小路実篤氏は「生きている人間が、死んだ人に色々尽くすけれども、限りのあることだ。死んだ人が生きている人をおもってくれている気持ちというものは、計り知れないものがある。」と言われました。「亡くなった人が私たち子孫を守ってくれている。」そのことを信じて、故人を供養していく事が自分自身の修行であり、亡き人を高めることが生きている我々のつとめなのです。

大本山永平寺の承陽殿の奥に「如在」という高階瓏仙禅師揮毫の額が掲げてありました。「在ますが如く、在すが如く」朝起きたらおはようございます、夜寝る時にはおやすみなさいと高祖様に御挨拶をしてお仕えをするという意味が込められています。「御先祖様に対して、そんな気持ちをもって供養していただきたい。このことが亡き人の中で生かしていく、敬慕する、追慕する事に繋がっていく」と思っています。

亡き人は決して帰ってはこないのですが、このようにお通夜の時に故人を敬慕し、追慕することによって、遺族の心の中で、導き手として常に生き続けて下さるのです。私自身、師匠が遷化して今年で四十年になります。が、師匠への敬慕の思いと重ねて、檀信徒に語らせて頂いております。

令和7年度第四宗務所  
テレホン(WEB)法話

おしょう こと は  
『和尚さんの言の葉』

4月	1日～10日 久昌寺(秋葉区) <b>中野 照明</b>	5月	1日～10日 林昌寺(阿賀野市) <b>藤田 郁雄</b>	6月	1日～10日 龍源寺(阿賀野市) <b>小野 利行</b>
	11日～20日 吉祥寺(五泉市) <b>生沼 宏祥</b>		11日～20日 長福寺(阿賀野市) <b>永島 昌英</b>		11日～20日 龍泉寺(阿賀町) <b>稲垣 大應</b>
	21日～30日 正雲寺(五泉市) <b>増井 聡海</b>		21日～31日 長谷寺(胎内市) <b>安澤 尚永</b>		21日～30日 宝来寺(阿賀町) <b>乙川 大樹</b>
7月	1日～10日 千眼寺(村上市) <b>神田 秀孝</b>	8月	1日～10日 林葉寺(南区) <b>武藤 悠真</b>	9月	1日～10日 宝昌寺(北区) <b>桑田 卓道</b>
	11日～20日 善福寺(村上市) <b>細野 徳彰</b>		11日～20日 永谷寺(五泉市) <b>吉原 東玄</b>		11日～20日 常勝寺(新発田市) <b>栗橋 一徳</b>
	21日～31日 大栄寺(江南区) <b>森田 拓磨</b>		21日～31日 相円寺(新発田市) <b>宗像 義順</b>		21日～30日 淵龍寺(阿賀野市) <b>永島 昌典</b>
10月	1日～10日 延命寺(東区) <b>薄田 孝道</b>	11月	1日～10日 如意寺(新発田市) <b>寺尾 英人</b>	12月	1日～10日 龍雲寺(中央区) <b>中村 全孝</b>
	11日～20日 安養寺(五泉市) <b>権平 一宗</b>		11日～20日 海天寺(村上市) <b>工藤 淳英</b>		11日～20日 智堂寺(北区) <b>佐藤 慈光</b>
	21日～31日 東陽寺(江南区) <b>木村 章悟</b>		21日～30日 普濟寺(村上市) <b>角一 大樹</b>		21日～31日 釋尊寺(阿賀野市) <b>新澤 光栄</b>
1月	1日～10日 白蓮寺(新発田市) <b>関根 大剛</b>	2月	1日～10日 栄徳寺(江南区) <b>茅原 玄道</b>	3月	1日～10日 洞照院(五泉市) <b>塚野 順也</b>
	11日～20日 太総寺(胎内市) <b>林 啓法</b>		11日～20日 観音寺(秋葉区) <b>阿部 正智</b>		11日～20日 瑠璃光院(阿賀野市) <b>柴田 正敏</b>
	21日～31日 雲泉寺(岩船郡) <b>神田 恭真</b>		21日～28日 浄光寺(五泉市) <b>明田川 佑介</b>		21日～31日 寿昌寺(新発田市) <b>大塚 健伸</b>

担当者は変更となる場合があります

テレホン法話 電話番号  
**0250-47-3132**

第四宗務所ホームページ  
内でも法話を聞くことが  
できます

こちらのQRコードを  
読み取ってください  
こちらからは過去の法話  
も聞くことができます



# 令和6年度 第四宗務所布教師会 活動報告

期 日	事 業	会 場	内 容	参加人数
5月30日(木) 午後2時開会	総会 春季研修会	宗務所 観音寺	総会 講師: 呉定明師 (正壽寺住職・布教師会会長・特派布教師) 演題: 「通夜説教について」 ※実演講習	寺院 25名
8月26日(月) 午後2時開会	夏季研修会	相圓寺	講師: 土田雅穂氏 (フードバンク新発田副代表) 演題: 「一隅を照らす(私のできること)」 ※実演布教	寺院 14名
10月15日(火) 午後3時開会	秋季研修会	瀬波ビュー ホテル	講師: 高田都耶子氏 (薬師寺特別顧問) 演題: 「後生を大事に ～父高田好胤の訓え～」	寺院 14名
11月25日(月) 午後2時開会	テレホン (WEB)法話 研修会	宗務所 観音寺	テレホン(WEB)法話に関する話(宗務所長より) 講師: 渡邊宣昭師 (東龍寺住職・特派布教師・ 令和3年度布教師養成所主任講師) 演題: 「三分間法話に臨んで」	寺院 25名
2月22日(土) 午後2時開会	冬季研修会	田上町 交流会館	講師: 三部義道老師 (山形県松林寺住職・特派布教師) 演題: 「確かな道」 ※実演布教	寺院 19名 一般 23名

## 実演布教 (実演講習)



秋季研修会  
高田都耶子氏

期 日	氏 名	対 象	演 題
5月30日	渡邊宣昭師	一般檀信徒	通夜のおつとめで、心掛けていること
	中野睦宗師	一般檀信徒	通夜説教
8月26日	薄田孝道師	一般檀信徒	今があつてのあれからとこれから
2月22日	吉原東玄師	一般檀信徒	ご縁～おかげさま、ありがとう～
	保坂文哉師	一般檀信徒	私の仏法僧

**編集後記**  
 この度、第四号の広報誌発行に対し皆様にご感謝申し上げます。今後も作成に対し皆様からのご意見もお待ちしております。  
 今年度からテレホン(WEB)法話が始まりました。諸師方の法話を聴くことができ、お檀家さんからの感想も頂きました。自分自身の勉強になりました。これからの励みになりました。これからも気を引き締めて向き合っていきたいと思っております。  
 藤田 郁雄



冬季研修会 実演布教



冬季研修会  
三部義道老師